

「女性たちの政策提言」概要

【経緯】「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」について

仙台市が新総合計画（2021～2030年度）を策定する機会をとらえ、女性の視点を市の政策に反映させることを目指して、このプロジェクトが立ち上がりました。

2019年9月から12月まで計5回のワークショップと報告会に、仙台の企業やNPO、地域など幅広い分野で活動する女性たちが参加。「30年後の仙台をイメージした10年間の取り組みを考える」をキーワードに、仙台の女性たちを取り巻く課題や、目指したいまちの姿について意見を出し合い、提言に練り上げました。

- ・ 5回のワークショップ（9/14～12/17）に延べ90人の女性が参加。
- ・ 11月の「男女共同参画推進せんだいフォーラム2019」で報告会を開き、成果やプロセスを発表。一般市民を含む23人が参加。

【特徴】一人ひとりの実感に基づく、地に足のついた提言です

- ・ メンバーが日々の仕事や活動で感じること、それぞれの生活実感に根ざした課題を掘り起こし、「こんな仙台に住みたい」という思いを形にした。
- ・ 市政に関わる分野を7つに分け、分野ごとに目指したいまちの姿と取り組みアイデアを盛り込んだ。
- ・ 様々な分野で意思決定の場に女性が少ないことへの問題意識が根底にある。
- ・ 多様な人々や次世代にも目を向け、「誰もが生きやすい社会」の実現を目指した。
- ・ 活動分野を超えた女性が集ったことで、違う視点で仙台を見つめられ、改めて気づいた自身の仙台への思い、「仙台愛」を注ぎ込んでいる。
- ・ まちづくりに関わる意欲と、まちづくりを担う責任を明記した。
- ・ 今後も自身の活動と市の施策を結びつけ、声をあげていく決意を宣言している。

【基本理念と7分野で描く都市の姿】

※提言書P5より

基本理念		
わたしたちがこのまちを創っていく		
7分野で描く都市の姿		
1	多様性・共生	多様な人々にそれぞれの居場所があり、発揮した力が生きるまち
2	子育て・教育	ここで育つ・育てることが誇りになるまち
3	生涯を通じた 学び	性別・世代・国籍などの背景にかかわらず学べ、力を発揮し、それを実感できるまち
4	企業・経済	多様な働き方ができ、豊かに暮らせるまち
5	活力・にぎわい	人や文化が交流し、産業や経済に新しい価値が生まれ続けるまち
6	コミュニティ	コミュニティの風通しがよく、どこに住んでも安心できるまち
7	防災・環境	自然の恵みと畏さを忘れず、仙台の体験を次世代と世界に発信するまち

女性たちの政策提言

2019年12月

新総合計画に仙台の女性たちが
声を届けるプロジェクト



この提言書は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）の目標5
「ジェンダー平等を実現しよう」のシンボルカラーでまとめました

新総合計画に仙台の女性たちが声を届ける プロジェクトとは

仙台市が新総合計画（2021～2030年度）を
策定する機会をとらえ、仙台の女性たちの
声を集め、政策提言するプロジェクト

メンバー

- ・ 企業の未来プロジェクト「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」
（仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団主催）
- ・ 地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く」（同上）
- ・ 2019年度ジェンダー論講座（(公財)せんだい男女共同参画財団主催）
- ・ 2019年度仙台市男女共同参画推進センター ロッカー・ワークステーション
利用団体
- ・ せんだい防災プロジェクトチーム

の参加者有志

提言の構成

I .はじめに.....	3
II .基本理念.....	4
III .7つの分野で描く都市の姿.....	5
IV .総合計画を真に市民のものとするために.....	13

はじめに

わたしたちは、変化の激しい時代を生きています。
少子高齢社会、格差、自然災害——。
様々な社会課題に対し、これまでのやり方や価値観では対応できなくなっています。
もちろん、仙台市においても例外ではありません。

そのまちづくりを担う市民の半数は女性です。
年齢、国籍、障害の有無など、多様な人が住み、いずれの属性にも女性がいます。

しかし、市の審議会委員や町内会長、企業の役員や管理職などに占める女性の割合は、依然として低いままです。

あらゆる分野・レベルの意思決定に女性が参画することは、まちの多様性を高め、持続可能なまちをつくるための合理的で必要不可欠な第一歩です。

このプロジェクトに参加するわたしたちには、変化を恐れない勇気があります。

大好きな仙台をもっと良くしたいという思い、そのためのアイデア、行動する力もあります。

わたしたち一人ひとりが暮らし、働き、活動する中で感じている課題をもとに、仙台の未来を描き、ここに提言します。

わたしたちがこのまちを創っていく

- 一人ひとりが自分の価値観を大事にできるまち
- 女性たちが声をあげ、地域課題を解決していくまち
- 女性たちがリーダーシップを発揮することを躊躇しないまち
- すべての意思決定の場に女性が参画しているまち
- 行政を含め、地域全体に声を「聞く耳」があるまち

仙台をこのようなまちにしていきます

7つの分野で描く都市の姿

基本理念

わたしたちがこのまちを創っていく

7分野で描く都市の姿

1	多様性・共生	多様な人々にそれぞれの居場所があり、 発揮した力が生きるまち
2	子育て・教育	ここで育つ・育てることが誇りになるまち
3	生涯を通じた 学び	性別・世代・国籍などの背景にかかわらず 学べ、力を発揮し、それを実感できるまち
4	企業・経済	多様な働き方ができ、豊かに暮らせるまち
5	活力・にぎわい	人や文化が交流し、産業や経済に 新しい価値が生まれ続けるまち
6	コミュニティ	コミュニティの風通しがよく、 どこに住んでも安心できるまち
7	防災・環境	自然の恵みと畏 ^{こわ} さを忘れず、 仙台の体験を次世代と世界に発信するまち

1 多様性・共生

多様な人々にそれぞれの居場所があり、 発揮した力が生きるまち

- 子どもも大人も自分を認め、他者を尊重できるまちづくり
- 多様な人々（女性、性的マイノリティ、若者、高齢者、障害者、外国人など）が、立場や状況に関わらず、意思決定の場に参画できる
- 誰もが孤立せず、社会とのつながりを持てる
- 悩みを共有したり、相談できる仕組みがある
- 高齢者や障害者、子ども連れが出かけやすいまちづくり

取り組みアイデア

学校の授業や活動に多様な人を招いて話してもらう

多様な人々がともに活動する場を創出する（防災訓練など）

性的マイノリティの人々に配慮した公共のトイレや更衣室を整備する

子育てタクシーやコミュニティタクシーなど、多様なニーズに対応できる地域交通を拡充する

2 子育て・教育

ここで育つ・育てることが誇りになるまち

- いじめや虐待、貧困、教育格差がなく、安心して育つことができる
- 子どもが幅広い世代と出会い、多様な価値観に触れる
- 子どもの自己肯定感・自己決定力を育む
- 子どもが未来を描けるまち
- 性別を理由に、学びの選択肢を狭められない
- 地域で親を支え、相談できる場や親子の居場所を充実させる
- 子どもに関わる仕事をする人が専門性を十分に発揮できる環境づくり
- 子育て支援に関する意思決定の場に女性が必ず参画する
- 男性が積極的に子育てに関われる社会にする

取り組みアイデア

スクールソーシャルワーカーなど、教員以外の専門家の配置を拡充する

教員の負担軽減のため、事務的業務の見直し・IT化や事務職員の拡充による代替を進める

学校・家庭・地域をつなぐ「学校支援地域本部」を拡充し、地域社会全体で子どもを支える

子どもが地域活動に参画したくなる仕組みをつくる
(ボランティアポイント、地域通貨の活用など)

学校の授業や活動に多様な人を招いて話してもらう
【再掲】

学校給食を無償化し、食材の地場産利用を拡大する

3 生涯を通じた学び

性別・世代・国籍などの背景にかかわらず学べ、力を発揮し、それを実感できるまち

- 学びの機会がいつでも誰にでも保障されている
- 誰もがライフステージにかかわらず学び直せる
- 学びたい人と支援したい人がつながり、学んだ力を発揮したい人とその力を求めている人がつながる
- 生きる力につながる学び
- 地域課題の解決に学びを生かす

取り組みアイデア

学びに関する情報の集約や人材とニーズのコーディネートのため、「学びのサポートセンター／コンシェルジュ」のような仕組みづくりや、既存の施設の連携に取り組む

「仙台市社会学級」を最大限に活用する

官民学が連携し、多様な学びの場の創出や、学びの内容の充実を図る

4 企業・経済

多様な働き方ができ、豊かに暮らせるまち

- 意思決定の場に女性が増える
- 男性も女性も子育てや介護とのバランスをとって働ける
- 誇りを持って働ける企業が地元に増える
- 女性がライフイベントに関係なく働き続けることができる
- シニア層、とりわけ女性が仕事や地域で培ったキャリアを生かす
- 障害や病気がある人が働き方を選択できる
- “女性が不安なく働き続けられるまち”のモデルケースを行政とつくる

取り組みアイデア

仙台で働く女性のネットワークをつくる

「16時退社デー」「週休3日」のような思い切った働き方改革へのチャレンジに市役所が率先して取り組む

男性の育休取得を促進させるための仙台独自の認証制度をつくる

障害や病気を有する人が働きやすい職場環境づくりに市役所が率先して取り組む

5 活力・にぎわい

人や文化が交流し、産業や経済に新しい価値が生まれ続けるまち

- 女性の力を地元企業・地域産業の活性化に生かす
- 女性によるネットワークや経営への参画で新しい商品やサービスを生み出す
- 女性の起業を支援する
- 一人ひとりが“仙台愛”を表現し、そこから生まれる交流のおもしろさや喜びを体感できる
- 地元の人も訪れた人も楽しめるイベントを充実させる
- 県外、海外からのアクセスの良さを発信する

取り組みアイデア

「仙台検定」など、楽しみながら仙台愛を醸成する仕掛けをつくる

仙台ならではの待ち合わせ場所をつくる

地域通貨を活用し、ボランティア活動や地域活動の活性化につなげる（地域通貨の単位例：1だっちゃ）

職住近接や都市と自然との共存、東北の中心地などの仙台市の個性やメリットをPRし、企業や人を呼び込む

6 コミュニティ

コミュニティの風通しがよく、どこに住んでも安心できるまち

- 地域コミュニティに果たす町内会の役割を再確認し、NPO等との連携も可能にする
- 女性が従来の役割にとらわれず、地域に参画する
- 災害時に、集合住宅を含めて助け合うコミュニティづくり
- 身近なところで集える場づくりを支援する
- 公共交通機関を補完する多様な交通手段を整備する

取り組みアイデア

女性の町内会長を増やす（2030年までに4割）

町内会役員の負担軽減や役割の見直しなど、持続可能な新しい町内会づくりに向けたモデル地区をつくり、改革に取り組む

地域通貨を活用し、ボランティア活動や地域活動の活性化につなげる（地域通貨の単位例：1だっちゃ）
【再掲】

楽しみながらできる防災訓練のアイデアを募る（キャンプ、祭り等）

7 防災・環境

自然の恵みと畏^{こわ}さを忘れず、 仙台の体験を次世代と世界に発信するまち

- 「仙台防災枠組2015-2030」の実現に向けて行動する
- 東日本大震災の被災地全体の復興に貢献する
- 防災に関心を持ち、知識を磨き、発信し続ける
- 様々な災害に備えた減災のまちづくり
- 市民も訪れた人も心ときめく、新しい「杜の都」の景観づくり
- 仙台ならではの文化・伝統の継承と創造

取り組みアイデア

震災遺構を生かした災害ツーリズムを官民連携で実施する

地域の伝統芸能の担い手の発掘や継承のための取り組みを地域任せにせず、仙台市全体で行う（秋保の田植踊など）

地域資源である「居久根（いぐね）」の保存・再生・活用について市民がともに考え、関わる機会をつくる

総合計画を真に市民のものとするために

様々な人がすべてのプロセスに関われるよう、下記を提案します

- 報道や市のホームページ、SNSなどを使い、広く知らせる
- 学校を通して子どもたちに伝える
- 町内会を通して地域の住民に伝える
- 計画の実現に向けた市民の自発的な取り組みを推進する仕組みを作る（認証制度等）
- 取り組み状況や成果を市民と一緒に振り返りながら実現していく

【女性たちの政策提言 別紙】
新総合計画に仙台の女性たちが
声を届けるプロジェクト
報告書
2019年12月



目次

提言作成経過「30年後の仙台をイメージした10年間の取り組みを考える」

I. キックオフミーティング	3
II. 第1回ワーキンググループ	8
III. 中間報告・意見交換会	10
IV. 第2回ワーキンググループ	11
V. 男女共同参画推進せんだいフォーラム2019「女性たちの政策提言」	12
VI. 第3回ワーキンググループ	13

ワーキンググループ

わたしたちのコミットメント	14
---------------	----

ワーキンググループ名簿	15
-------------	----

資料	16
----	----

提言作成経過

30年後の仙台を
イメージした
10年間の取り組み
を考える

1. キックオフミーティング

2019年9月14日（土）13:30～16:30
エル・パーク仙台 スタジオホール



はじめに、プロジェクトの目的（下記参照）や今後の進め方について確認。仙台市の担当者から市の新総合計画の概要に関するレクチャーを受けた後、「仙台の女性たちの現状・課題」「目指したいまちの姿」について、意見を出し合った。

◆プロジェクトの目的

仙台市が新総合計画を策定する機会を捉え、女性たちが社会的な課題について意見を出し合い、取りまとめるプロセスを通じ、「ビジョンを作る力・伝える力」や「チームで取り組む力」を磨く。最終的には「提言」として女性の視点を仙台市の政策に反映させることを目指す。

◆参加人数 37人

- 【対象】
- ・企業の未来プロジェクト「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」受講者
 - ・地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く」受講者
 - ・2019年度ジェンダー論講座受講者
 - ・2019年度仙台市男女共同参画推進センター ロッカー・ワークステーション利用団体
 - ・せんだい防災プロジェクトチーム

◆プログラム

1. あいさつ／（公財）せんだい男女共同参画財団 専務理事 岩淵 千代子
2. 仙台市新総合計画について／まちづくり政策局政策企画課 主幹 千代谷 馨一氏
3. ワークショップ／地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄氏…★P4参照
 - ・ 現行計画の振り返り
 - ・ 〈情報提供〉男女共同参画せんだいプランについて／市民局男女共同参画課 主幹 水野 直子氏
 - ・ グループでの話し合い
 - 全体「現状・課題」「目指したい姿」
 - 7つの重点的な取り組みの視点ごとの「現状・課題」「目指したい姿」「取り組みアイデア」
4. 今後の案内

★ワークショップ

【現行計画の振り返り】

各グループで自己紹介を行った後、以下の4つの問いについて話し合った（主な意見を抜粋）。

①現在の総合計画を知っていましたか？

市政だよりを見て知っていた／存在は何となく知っていたが、内容は知らなかった／一部の偉い人や有識者だけで作っているイメージがあった／全く知らなかった

②総合計画は誰のための計画でしょうか？

市民／未来の市民／子どもたち／仙台を訪れる人／仙台市を取り巻く東北、全国、世界

③いい計画とはどんな計画でしょうか？

市民一人ひとりが「自分ごと」になるもの／各世代のことが盛り込まれている／より多くの人共感できる計画／実現可能な計画／希望が持てる／ワクワクする！／わかりやすい／何がどこまで実現したのか、策定後の成果や変化が市民に見える計画

④新しい計画は、どのように活用されたいと思いますか？

折りに触れ、立ち返る存在であってほしい／身近な計画として活用できる／若い世代に浸透させる／作って終わりではない／もっと市民の力を活かし、真の市民協働ができればいい

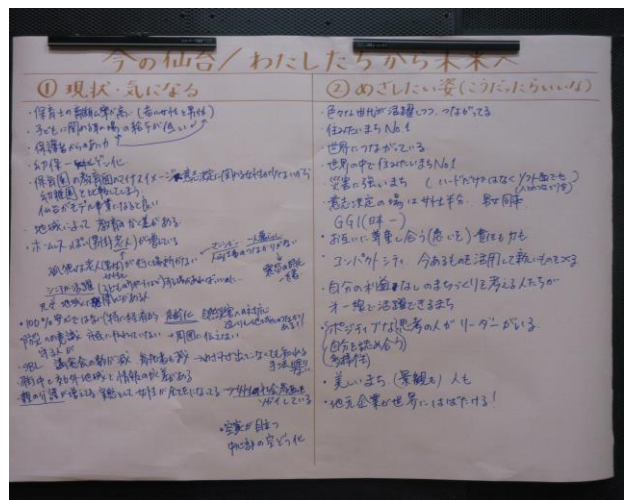
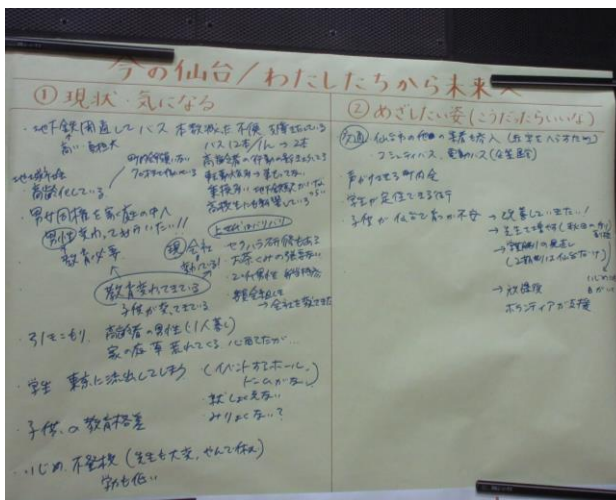
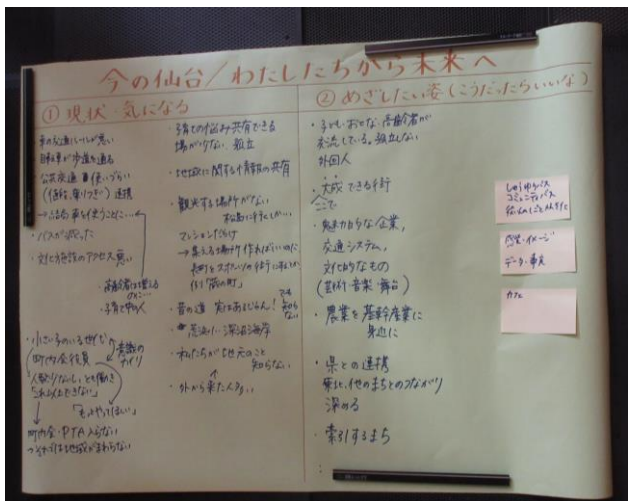
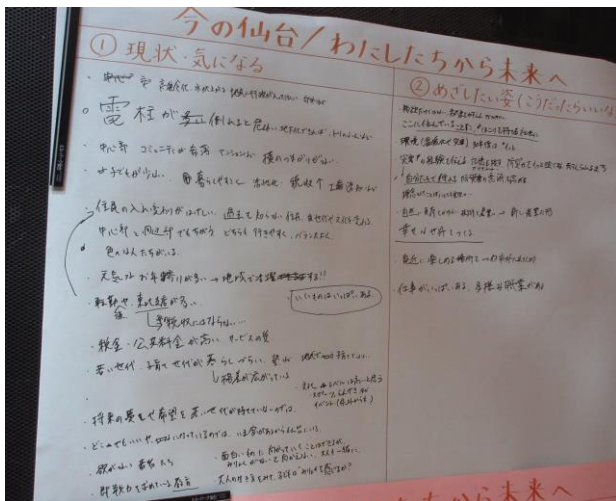
【グループごとの話し合い／前半】

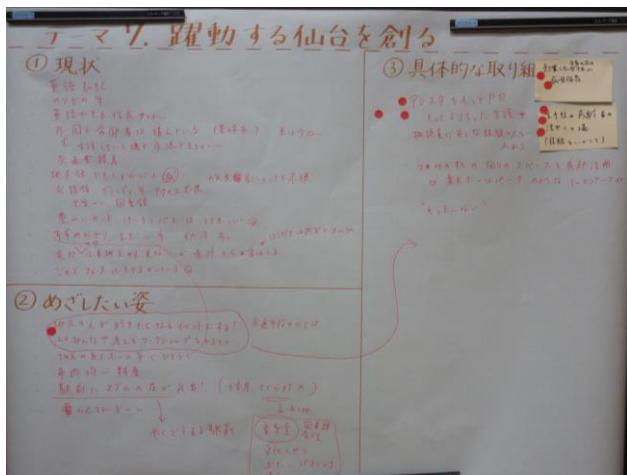
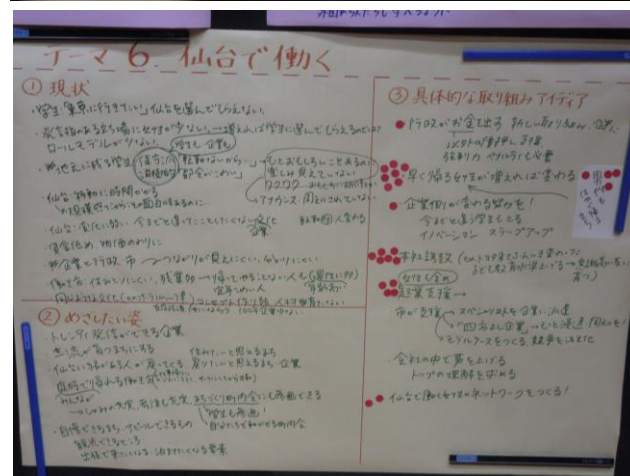
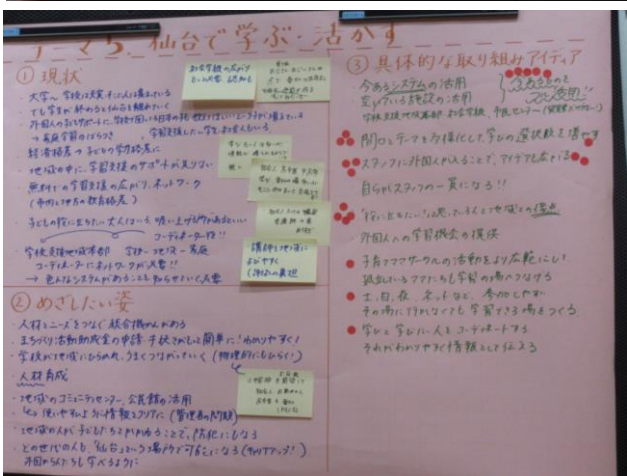
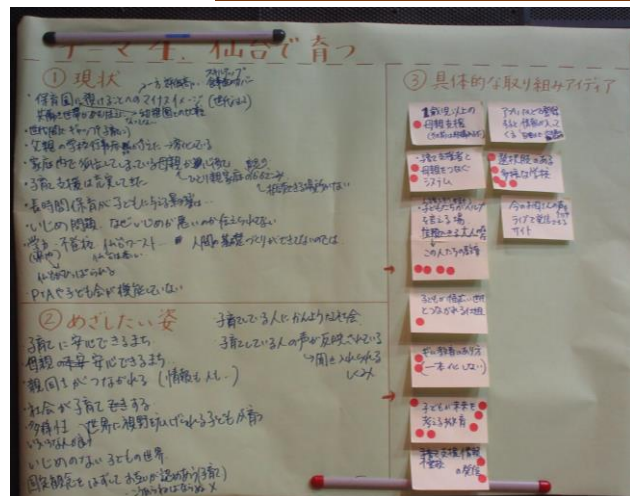
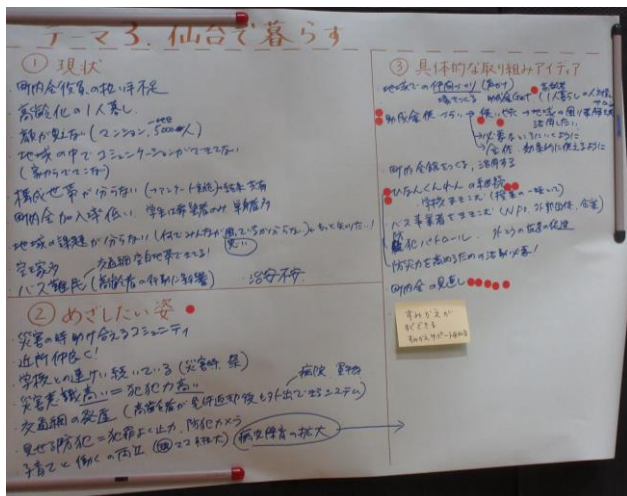
7つのグループごとに、以下の2つの問いについて話し合った（意見は写真を参照）。

私たちが仙台に暮らしていて

①現状をどう感じていますか？気になることや問題は何だと思いますか？

②私たちや子どもたちの未来を考えた時、目指したい未来（こうだったらいいな）はどんな姿でしょうか？





▲共感するアイデアに「いいね」シールを貼る参加者

【キックオフミーティングの感想】

- ・できることはたくさんありそう！
- ・自分とは異なる視点からの様々な意見に出会ったことで、新たな考え方と組み合わせることの楽しさを感じました。
- ・前向きにいろいろなアイデアが出て、刺激になりました。
- ・仙台大好きです。
- ・自分の住むまちのことに意見を反映できるこの取り組み自体が素晴らしいと思いました。
- ・私たちが未来を語る時、笑顔になっていました。それが実現すれば、街中の人々が笑顔になるのでは！と嬉しくなりました。
- ・あらためて自分の活動してきたことを振り返り、さらに一歩踏み出すきっかけとなった。
- ・様々な地域、分野で活発に活動している人々と出会えたことに感動！それぞれの分野のネットワークが繋がれば、最強だと思った。
- ・仙台の未来に希望が持てた！！
- ・女性が感じたり、考えたり、活動したりしていることは、なんて幅広く、愛に満ちているのだろうか！
- ・みんなが日々感じていることを声に出して、動いていこう！という意志を持てば、必ずいい未来がある！！
- ・仙台に住む理由を、自分でつくる努力や、自ら探し続けていくことが、魅力あるまちづくりや会社づくりになるのでは。全てつながっていると感じました。
- ・自分が思っていることは、みんな思っている（こともある）。声に出す、共有することが未来を変える第一歩。



II. 第1回ワーキンググループ「提言素案の作成」

2019年10月15日（火）19:00～21:00
エル・ソーラ仙台 大研修室



初回のキックオフミーティングで出し合った意見を踏まえ、全体として「目指したい姿」は何か、大事にしたい視点を確認しながら、わかりやすく短文化する作業を行った。続いて、7つのテーマについても「目指したい姿」「現状・課題」「具体的な取り組みアイデア」ごとに短文化した。

◆参加人数 16人

【対象】9/14のキックオフミーティングの参加者から募ったワーキンググループメンバー

◆ワークショップ／地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄氏

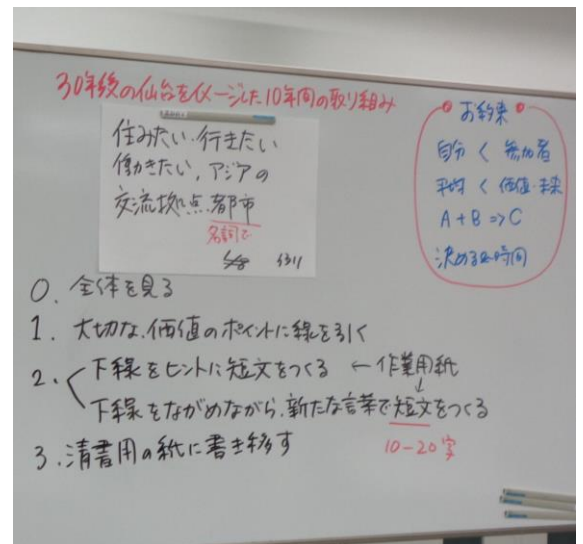
1. はじめに

- ・グループ内自己紹介
- ・今日の進め方の確認
- ・前回の振り返り

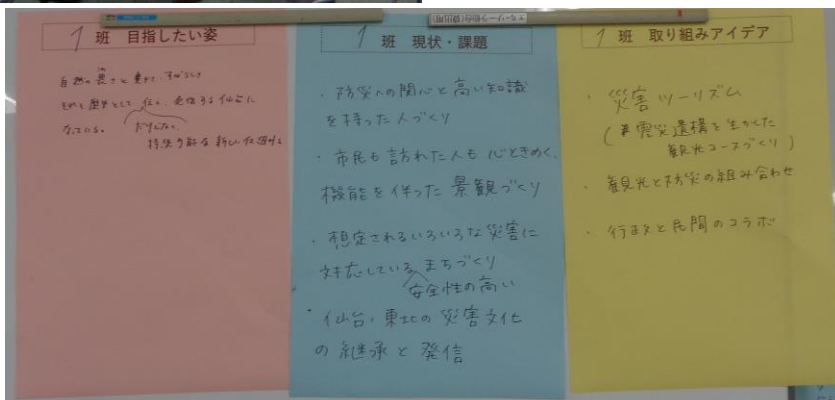
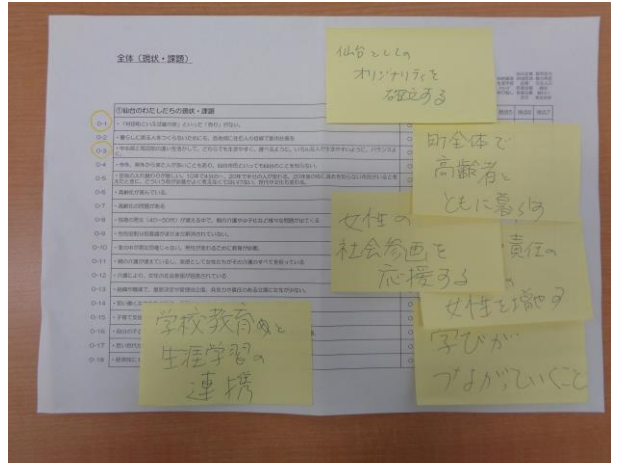
2. 提言素案の作成

- ・全体について言葉を考えよう
「目指したい姿」の短文化
- ・テーマごとに考えよう
「目指したい姿」「現状・課題」
「具体的な取り組みアイデア」の短文化

3. 今日の振り返り、次回の案内



▼初回の意見を全抽出したシートから、大事な視点・価値を考え、文章を練り上げる参加者





ワーキンググループメンバーがまとめた文章について、さらに伝わる表現にするために再検討し、言葉を磨く作業を行った。

◆参加人数 14人

【対象】ワーキンググループメンバー、9/14キックオフミーティング参加者

◆ワークショップ／地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄氏

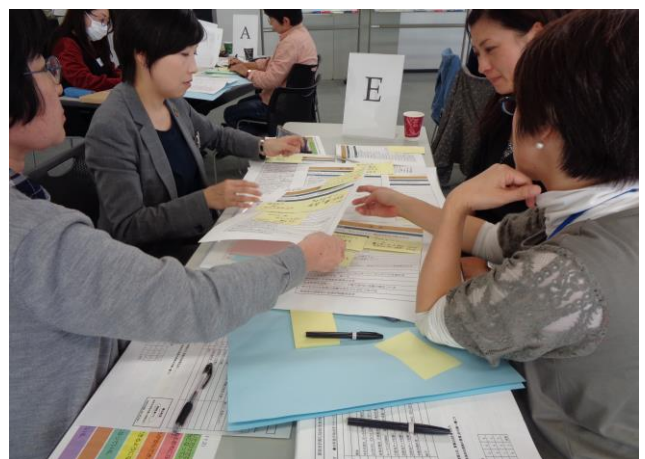
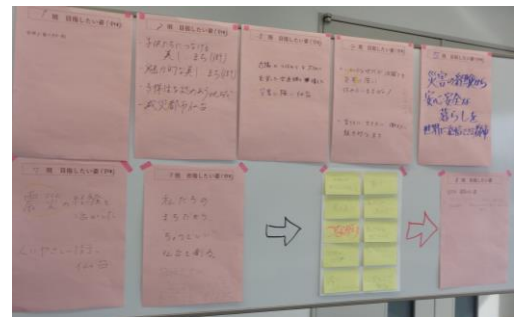
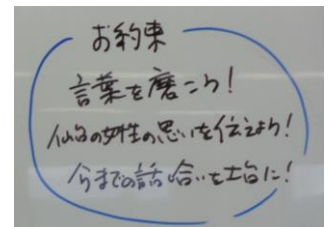
1. はじめに

- ・ 今日の流れ、ゴールの確認
- ・ グループ内自己紹介
- ・ 前回までの振り返り

2. 提言素案の検討

- ・ 全体の検討（素案全体、全体の目指す姿）
- ・ テーマごとの検討

3. 今後の進め方



IV. 第2回ワーキンググループ「提言素案の確認」

2019年11月19日（火） 19:00～21:00
エル・ソーラ仙台 大研修室



これまで話し合いを積み重ねて練り上げた提言素案の表現をあらためて確認・検討し、まちづくりや新総合計画への自身のコミットメント（P14参照）について話し合った。

◆参加人数 11人

【対象】ワーキンググループメンバー

◆ワークショップ／地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄氏

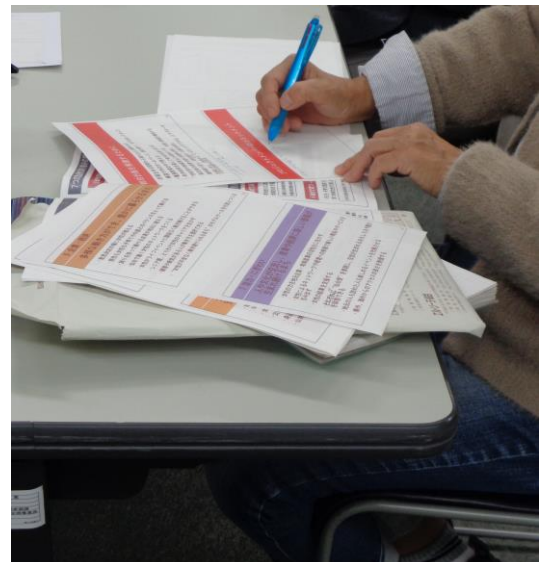
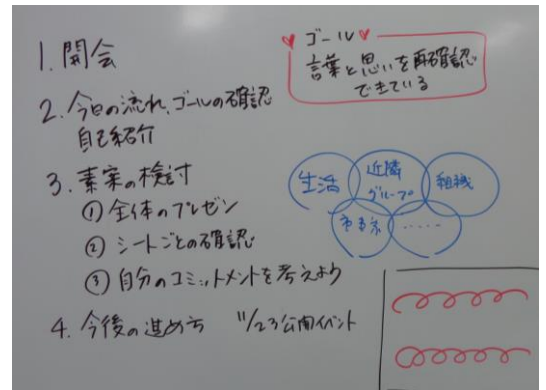
1. はじめに

- ・ 今日の流れ、ゴールの確認
- ・ グループ内自己紹介

2. 提言素案の検討

- ・ 全体の構成の確認
- ・ シートごとの検討
- ・ 自分のコミットメントを考えよう

3. 今後の進め方





一般公開イベントとして、「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」の成果やプロセスを、関わった女性たちの思いとともに報告。フロアから感想、期待、アドバイスなどが寄せられた。

◆参加人数 23人

【対象】ワーキンググループメンバー、9/14キックオフミーティング参加者
関心のある一般市民

◆プログラム

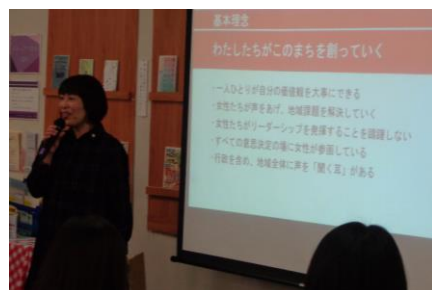
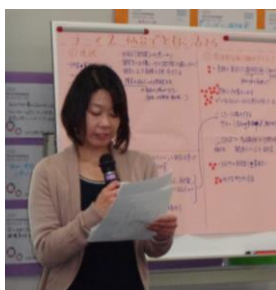
1. 開会
2. 提言発表
3. 提言の検討経過
4. 感想・コメント

- ・プロジェクトメンバーから
- ・ゲストから

地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄氏

- ・参加者から

5. 今後の進め方
6. 閉会



◆参加者の感想（アンケートより）

- ・皆さんのそれぞれの思い、考え、理想を聴き、いろいろなアイデアが浮かびました。
- ・勇気をもらえました。
- ・審議会、自治会、議会、民間企業の管理職・役員etc. …女性50%の社会でありたい。
- ・この政策提言をどう行政に届け、生かされるかという部分がとても重要なので、見守っていききたい。

VI. 第3回ワーキンググループ「提言最終版に向けて」

2019年12月17日（火）19:00～21:00
エル・ソーラ仙台 サポートルーム



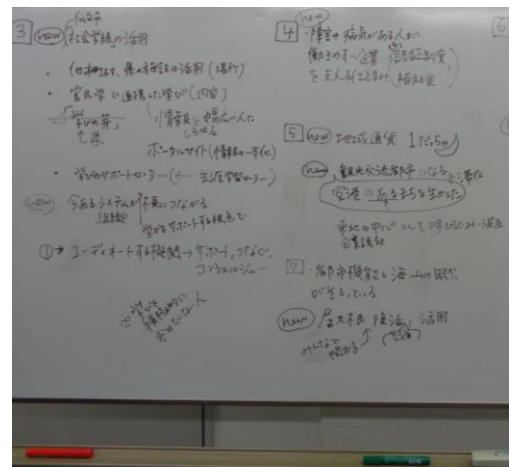
政策提言に盛り込む「具体的な取り組みアイデア」について検討・追加し、提言完成に向けた最終調整を行った。

◆参加人数 12人

【対象】ワーキンググループメンバー

◆プログラム

1. はじめに
 - ・今日の進め方の確認
 - ・11/23の報告
2. 取り組みアイデアの検討・追加
3. 報告書の確認と11/19欠席者のコミットメント
4. 仙台市への提出について



わたしたちのコミットメント

- ◆女性が社会を変えていくとの信念を様々な機会に発信していく。自分が参加できることに進んで加わっていく。
- ◆市民に身近な総合計画になるように、つなげて広げていきます。
- ◆「ジェンダー論講座」卒業生の仲間たちと一緒に関わっていききたい。
- ◆若い人たちが活動していくのを応援したい。
- ◆日々の生活の中で新総合計画がどのように進んでいるのか、情報収集に努力し、次世代に輝かしい仙台になることに希望を持ちたい。
- ◆議員として、総合計画の実行に関わりたい。
- ◆学びを必要とする様々な人に課題と機会を提供する。
- ◆仙台で働く女性として女性が働き続けること、そしてその形に関心を持ち続けていききたい。
- ◆活力・にぎわいを創出するために、人や文化が交流できるまちづくりに地元企業として取り組んでいく。
- ◆町内会との関わりを大事にしたいと思うので、町内会長・役員たちとの会議に出席し、地区の課題解決に取り組んでいききたい。住みやすく、コミュニケーションが気軽にとれる地区にしたい。
- ◆総合計画が暮らしやすい生活の実現に役立つことを望む。目に見えた形で、交通、教育、地域社会の活性化、子どもたちの安心・安全など。今後も市政を見つめていく。
- ◆仙台で暮らすこと、生きることに関心を持つ。
- ◆必要としている人とその人たちをサポートする役目の一端を担えるよう、活動を続けます。

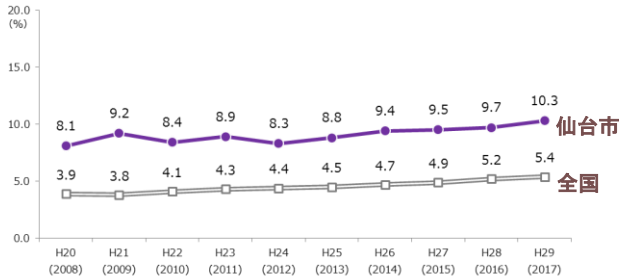
名簿

1	門脇 佐知	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2015」修了者
2	菅野 澄枝	2019年度ジェンダー論講座受講者
3	菊地 宏美	2019年度ジェンダー論講座受講者
4	菊地 麻里子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2019」修了者
5	河野 美咲	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2018」修了者
6	後藤 咲子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2017」修了者
7	齊藤 久美子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2019」修了者
8	佐藤 亜矢子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2016」修了者
9	澤田 宏美	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2019」修了者
10	鈴木 陽子	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2016」修了者
11	高橋 道子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2016」修了者
12	田所 希衣子	2019年度仙台市男女共同参画推進センター ロッカー・ワークステーション利用団体
13	丹治 美奈	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2018」修了者
14	中川 禮	せんだい防災プロジェクトチーム
15	長崎 邦子	2019年度仙台市男女共同参画推進センター ロッカー・ワークステーション利用団体
16	中野 わか子	2019年度ジェンダー論講座受講者
17	羽柴 奈々	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2019」修了者
18	堀江 美恵子	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2018」修了者
19	曲山 敦子	2019年度ジェンダー論講座受講者
20	水出 佳奈	企業の未来プロジェクト 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2019」修了者
21	水野 麻美	2019年度ジェンダー論講座受講者
22	谷津 尚美	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2016」修了者
23	渡辺 せつ	地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く2018」修了者

※五十音順

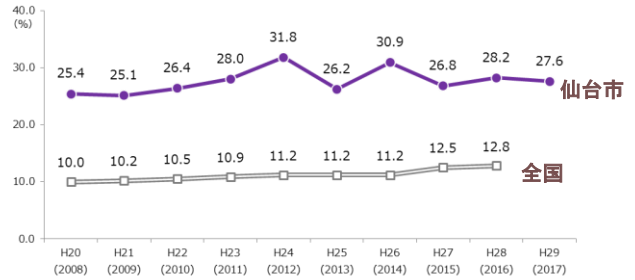
女性の参画データ

町内会長に占める女性の割合 **10.3%**



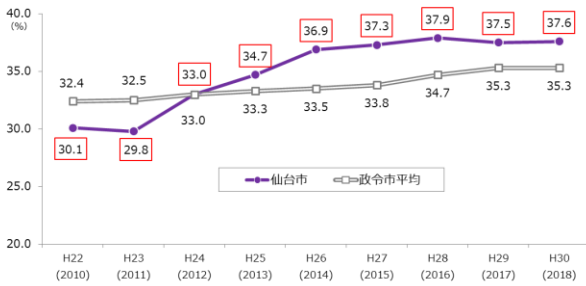
出典：仙台市：市民局資料、全国：「女性の政策・方針決定過程への参画状況の推移（総括表）」

P T A 会長に占める女性の割合 **27.6%**



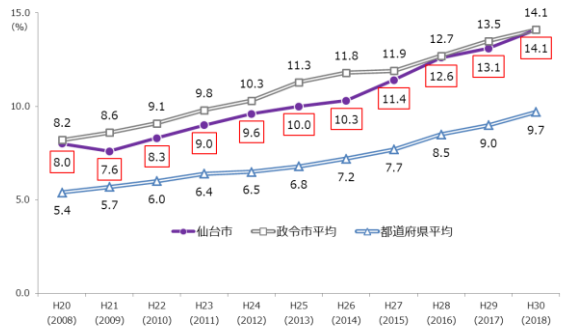
出典：仙台市：市民局資料、全国：「女性の政策・方針決定過程への参画状況の推移（総括表）」

審議会等委員の女性の割合 **37.6%**



出典：仙台市：市民局資料、政令市平均：内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」

仙台市役所の女性管理職の割合 **14.1%**



出典：仙台市：総務局資料、政令市・都道府県：内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」

仙台市議会議員に占める女性の割合 **23.6%** (令和元年12月1日現在、仙台市議会)

宮城県議会議員に占める女性の割合 **13.6%** (令和元年12月1日現在、宮城県議会)

民間企業の課長級に占める女性の割合 (全国) **11.2%**

上場企業の役員に占める女性の割合 (全国) **4.1%**

(出典：令和元年版男女共同参画白書)